



学校だより

# 黄 菊

〈学校評価号〉

令和8年2月17日

立川市立第七小学校

校長 島村 雄次郎

《本校の教育信条》『我等は人間 よき人間でありたい』武者小路実篤先生より

## 令和7年度 学校評価（保護者アンケート）結果のご報告

2学期に実施いたしました学校評価アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。93世帯（家庭数186）から、貴重なご意見をお寄せいただきました。今回のアンケートでは、多くの項目において90%を超える高い肯定評価（「そう思う」「概ねそう思う」の合計）をいただきました。これらの結果を教職員一同、真摯に受け止め、本校の成果および今後の改善点についてご報告いたします。

※アンケートの詳細につきましては、次頁をご覧ください。

### 【成果】

本校が重点を置いている専門的な指導体制が、子どもたちの確かな学びと安心感につながっています。

- ・「教科担任制」による「分かる授業」の推進 [項目⑥]  
「分かりやすい授業」への肯定評価は91.4%に達しました。教科担任制の導入により、各教員が教材研究を深め、専門性を生かした質の高い授業を提供できていることが、子どもたちの理解度の向上として表れています。
- ・「特別支援教育」を基盤とした個の尊重 [項目⑧]  
「人権を尊重した指導」については、91.4%の方から肯定的な回答を得ました。本校では、特別支援教育の視点を軸に据え、校内委員会を中心として、児童理解や支援の在り方について組織的に協議・共有しています。こうした共通理解のもと、全教員が一貫した視点で児童に関わる体制を整えており、これらの取組が高い評価につながっているものと考えられます。
- ・充実した体験活動と探究的な学び [項目④・⑩]  
学校行事等の有意義な活動については98.9%、立川市民科における探究的な学びについても91.4%と、非常に高い支持をいただきました。体験を通して「自ら学ぶ力」を育成する取組が、着実に成果を上げています。

### 【課題】

高い評価をいただいている一方で、学校の「見えにくい取組」を可視化していくことが今後の課題です。

- ・「いじめ・暴力根絶」に向けた断固たる姿勢の可視化 [項目⑨]  
本項目では、肯定的な回答が81.7%に達しており、多くの方から信頼をお寄せいただいていることがうかがえます。一方で、9.6%の方が「分からない」と回答されています。学校現場では教員が一丸となり、未然防止と早期解決に全力で取り組んでいますが、その具体的な取組や姿勢が十分に伝わっていない状況が見えてきました。事案の性質上、個別の案件についてご報告することはできませんが、「いじめ・暴力根絶」に向けた学校としての取組や基本的な考え方については、今後も丁寧に発信してまいりたいと考えております。すべてのご家庭に少しでも安心をお届けできるよう、引き続き努めてまいります。
- ・学習評価における「納得感」の向上 [項目⑦]  
学習評価の説明に対しては、87.1%が肯定的な回答を示しましたが、10.7%の方が「分からない」と回答しており、一定の課題がうかがえます。各教員は、観点や基準に基づいた根拠のある評価を行っていますが、その意図や評価に至る過程についての共有が十分でないことが要因であると考えられます。教科担任制のもとで行われる専門性の高い評価への信頼性をさらに高めるため、評価基準および評価プロセスの可視化を進めるとともに、丁寧な説明に今後も継続して取り組んでまいります。
- ・小中連携の取組の具体化 [項目⑬]  
小中連携については、肯定的な意見が50.6%である一方、34.4%の方が「分からない」と回答されています。9年間の学びの連続性を実感していただけるよう、中学校との具体的な合同活動や交流の様子を、学校ホームページや学校だより、保護者会等を通して積極的にお伝えしてまいります。

今回の結果を受け、本校では「教科担任制」や「特別支援教育」という強みをさらに磨くとともに、「学校の取組を家庭へ届ける力」を一層強化し、より高い信頼関係の構築に努めてまいります。

# 令和7年度 学校評価 保護者アンケート

